

# UDC

## forum2017 in Kashiwa

2017  
**10/5**  
Thu

第5回 アーバンデザインセンター会議 in 柏 中心市街地

街なかにおけるUDCの役割 — 再開発からエリマネまで

# 街なかにおけるUDCの役割 — 再開発からエリマネまで

複雑化する都市の課題に対して、従来の方法論を超えた新たなまちづくりのアプローチが全国各地で始まっています。公・民・学の連携によってまちの将来像を描き、プロジェクトを推進する「アーバンデザインセンター（UDC）」もその一つ。全国のUDCのメンバーが柏に集い、オープンに議論を行います。今回のテーマは「都市開発とエリマネジメント」。法政大学の保井美樹教授を招き、特に中心市街地や既成市街地においてUDCが果たす役割や課題について議論を深めます。

## 進行プログラム

全体司会：後藤良子（UDCイニシアチブ理事、UDCK）

13:30 開会

開会挨拶 信時正人（UDCイニシアチブ理事、UDCSEA）  
鬼沢徹雄（柏市副市長）

基調講演Ⅰ「再開発からエリマネまで UDCの役割と課題」  
出口敦（東京大学教授、UDCイニシアチブ代表理事）

基調講演Ⅱ「エリマネジメントの現状と展望」  
保井美樹（法政大学教授、全国エリマネジメントネットワーク副会長）

（休憩）

14:45 新加盟のセンターからの報告

・アーバンデザインセンター茅ヶ崎 [UDCC] 高見澤和子 センター長

・アーバンデザインセンターびわこ・くさつ [UDCBK]  
及川清昭 センター長（立命館大学教授）

・アーバンデザインセンター高島平 [UDCTak]  
樋野公宏 副センター長（東京大学准教授）

・おおたクリエイティブタウンセンター [OCTC]  
野原卓 センター長（横浜国立大学准教授）

・柏アーバンデザインセンター[UDC2] 安藤哲也 副センター長

・アーバンデザインセンター大宮 [UDCO]  
内田奈芳美 副センター長兼ディレクター（埼玉大学准教授）

・松山アーバンデザインセンター[UDCM] 尾崎信 ディレクター（愛媛大学講師）

（休憩）

16:40 ディスカッション「中心市街地・既成市街地の課題とUDCの役割」

コーディネーター：出口敦

パネリスト：工藤和美（UDCO 東洋大学教授）  
前田英寿（UDC2 芝浦工業大学教授）  
尾崎信（UDCM 愛媛大学講師）

コメンテーター：保井美樹・野原卓

17:45 次回開催地発表

17:55 閉会挨拶 寺嶋哲生（UDC2代表理事、柏商工会議所会頭）

18:00 閉会

---

基調講演

---

**出口敦**（東京大学大学院新領域創成科学研究科社会文化環境学専攻 教授／UDCイニシアチブ理事）

1990年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了（工学博士）。東京大学助手、九州大学助教授、同大学教授を経て、2011年より現職。専門分野は都市設計学。コンパクトシティや持続可能な都市環境についての研究を進めるとともに、都市デザイナー、実務者としても活躍。柏の葉アーバンデザインセンター（UDCK）センター長として、同地区の都市開発に参画。田村地域デザインセンター（UDCT）、柏アーバンデザインセンター（UDC2）、アーバンデザインセンター高島平（UDCTak）においてもセンター長を務めている。

**保井美樹**（法政大学現代福祉学部・人間社会研究科 教授／全国エリアマネジメントネットワーク副会長）

1991年早稲田大学政治経済学部政治学科卒業後、保険会社勤務を経て、97年米ニューヨーク大学大学院公共政策大学院都市計画専攻修士課程修了、工学博士（東京大学）。米Institute of Public Administration、世界銀行、東京市政調査会、東京大学等を経て、2004年より法政大学。専門は都市計画、地域政策で、特にエリアマネジメント、官民連携まちづくり、地域自治に関心を寄せる。研究の傍ら、各地でまちづくり団体の立ち上げや運営、公共施設の再編や官民連携による運営の支援を行う。

---

パネルディスカッション

---

**工藤和美**（東洋大学理工学部建築学科 教授／シーラカンスK&H代表取締役／アーバンデザインセンター大宮 センター長）

1991年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。在学中に、オランダとスイスに研修留学等を経て、1986年（株）シーラカンス共同設立、1998年 シーラカンスK&H株式会社に改組。02年より東洋大学建築学科教授。

**前田英寿**（芝浦工業大学教授／柏アーバンデザインセンター副センター長）

1994年東京大学大学院工学系研究科博士課程退学後、（株）曽根幸一・環境設計研究所勤務。2001年（有）プレイス・デザインを設立。2007年より柏の葉アーバンデザインセンター副センター長を経て、2010年より現職。

**尾崎信**（愛媛大学防災情報研究センターアーバンデザイン研究部門 講師／松山アーバンデザインセンターディレクター）

2005年東京大学大学院修了後、（株）アトリエ74建築都市計画研究所にて勤務。2009年より東京大学大学院社会基盤学専攻助教を経て、2017年より現職。工学博士（東京大学）。ISV協会。芝浦工業大学非常勤講師。

---

センター活動報告

---

**高見澤和子**（アーバンデザインセンター茅ヶ崎センター長）

1995年茅ヶ崎市が募集した景観資源調査ボランティアへの参加をきっかけに、96年市民グループ「まち景まち観フォーラム・茅ヶ崎」を結成、2012年から17年解散まで代表。元・茅ヶ崎市景観まちづくり審議会委員。

**及川清昭**（立命館大学理工学部建築都市デザイン学科教授／アーバンデザインセンターびわこ・くさつセンター長）

1976年東京大学工学部建築学科卒業後、東京浦辺建築事務所勤務。84年東京大学大学院博士課程修了、東京大学生産技術研究所助手。99年から東京大学大学院新領域創成科学研究科助教授。2003年より現職。

**樋野公宏**（東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻准教授／アーバンデザインセンター高島平副センター長）

2003年東京大学大学院博士課程修了博士（工学）。04年から独立行政法人建築研究所・都市研究グループ研究員となり、09年より主任研究員。14年から現職。16年よりUDCTak副センター長。

**野原卓**（横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院准教授／おおたクリエイティブタウンセンターセンター長）

2000年東京大学大学院工学系研究科（都市工学専攻）修了、設計事務所勤務の後、東京大学助手（助教）等を経て、10年より横浜国立大学大学院工学研究院准教授、11年より現職。17年よりOCTCセンター長。

**安藤哲也**（柏アーバンデザインセンター副センター長／コミュニティデザインラボmachi-ku 代表／わくらボ 代表）

2008年明治大学大学院修了。不動産会社、（株）首都圏総合計画研究所を経て、2015年1月NPO団体わくらボ設立、同年8月コミュニティデザインラボmachi-ku設立し代表を務める。17年よりUDC2専任副センター長。

**内田奈芳美**（埼玉大学人文社会科学系研究科准教授／アーバンデザインセンター大宮副センター長兼ディレクター）

ワシントン大学修士課程修了、早稲田大学理工学研究科博士課程修了。博士（工学）。専門：都市計画・まちづくり。金沢工業大学環境・建築学部講師などを経て、現職。



まちうたお披露目ライブ



ストリートパーティー



ミライカイギ

## 柏アーバンデザインセンター [UDC2]

2015年4月16日設立 2016年11月15日法人化  
千葉県柏市 柏駅周辺エリア



### 活動エリアの状況と課題

千葉県の北西部に位置する柏市中央部は、1973年の市街地再開発事業により複数の大型商業施設やペDESTリアンデッキが整備され、17の商店街、小売店や飲食店等の個店が集積する広域商業拠点として形成されてきた。ストリートライブや飲食店の食べ歩き等の数多くのイベントが行われるなど、近隣市に比べ、賑わいや知名度を誇っている。

しかし、つくばエクスプレスの開業や郊外型大型店舗の出店等により、柏駅の乗降人員数、中心市街地の歩行者交通量や年間小売販売額も減少傾向にある。さらに、2016年9月にそごう柏店が閉店したことから、まちづくりに関わる多くの組織等が目的をもって連携し、柏駅周辺エリアの魅力や吸引力をもり立てる取り組みがさらに必要とされている。

### 設立経緯

2014年8月、柏駅周辺の価値向上を目的に、公共、民間、学識で構成された「(仮称)柏駅周辺まちづくりセンター準備委員会」が設置され、様々なセンターを検討・議論した結果、「公・民・学」が連携するまちづくり拠点である任意団体「柏アーバンデザインセンター」を設立することとなった。同じく任意団体である「柏エリアマネジメント協議会」と融合し、2016年11月15日に「一般社団法人柏アーバンデザインセンター」として再編成をした。

### センターの活動概要

- ①アーバンデザイン事業
  - ・アーバンデザイン会議の実施
  - ・(仮)柏駅周辺グランドデザインの検討
- ②調査研究事業
  - ・柏駅周辺エリアのデータ集積および分析
- ③まちづくり勉強会事業
  - ・研究会の実施
  - ・まちづくりスクールの実施
- ④プラットフォーム事業
  - ・マチナカお掃除の実施
  - ・プロジェクト提案(市民活動団体への活動支援)
  - ・市民活動団体等との情報共有を目的とした会議の運営
  - ・来街者促進イベントの調整及び情報発信
- ⑤本部事業
  - ・多様な場づくりの実施
  - ・ラブカシ〜柏駅周辺まちづくり憲章〜の周知

### 今後の活動の展望・課題

- ①会員が大勢いることを活かしたまちづくりの推進
- ②(仮)柏駅周辺グランドデザインの周知及び実現化
- ③まちづくり人材の発掘・育成による協働の推進
- ④街と人を近づけることを目的とした対話の場づくり(ミライカイギ)



施設外観



施設内観

#### 組織形態

一般社団法人

#### 構成団体

「公」: 柏市、柏市まちづくり公社

「民」: 柏商工会議所、地元会員(地権者や大規模店など)

「学」: 東京大学(空間計画研究室)、麗澤大学、芝浦工業大学

#### 代表者

出口敦(東京大学教授)

#### 実務体制

常駐スタッフ3名(都市計画1名、プロモーション1名、市職員1名)、非常勤スタッフ1名(会員対応)、受付・事務1名  
職員所属(人件費負担): 市職員1名、公社3名、柏商工会議所1名

#### 施設概要

約195.46㎡

道路用地上の市所有の建物を暫定利用。商店街に面している部分が事務所。中庭を通して奥に会議室がある。街の方々が気軽に入って資料等を閲覧するようなスペースは確保できていない。

#### 問合せ先

〒277-0005 千葉県柏市柏1-5-18

TEL: 04-7166-5000 E-mail: info@udc2.jp

<http://udc2.jp/>



オープニングセレモニー



地区のまちづくり討論会

## アーバンデザインセンター大宮 [UDCO]

2017年4月1日運営開始  
埼玉県さいたま市大宮駅周辺



### 活動エリアの状況と課題

大宮駅周辺は県内随一の商業・業務機能集積地であり、重要な交通結節点である。しかし東口周辺では長らく都市更新が停滞しており、老朽化した建物等が多く残っている。官民学協働で策定した「大宮駅周辺地域戦略ビジョン」(2010)に掲げられた公共施設・交通基盤・街区更新の方針や、国土形成計画(2015)・首都圏広域地方計画(2016)に位置付けられた「対流拠点都市」という大宮の広域的な役割等、これまでのまちづくりや国土づくりの大きな方向性を、いかに具体的な都市像に描き、産官学民の連携により実現していくかが課題となっている。

### 設立経緯

「大宮駅周辺地域戦略ビジョン」(2010)策定後、ビジョンをどのように具体化させていくかが模索される中、地元まちづくり団体がUDCOの視察を行ったことをきっかけにUDCO設置を市に要望した。その結果、暫定的に公民学が一体となって主体的にまちづくりを考えるためのコミュニティ・ステーション「まちラボおおみや」が現在のUDCOの場所に設置され、まちラボおおみやでの産官学民の連携によるまちづくりの試行期間を経て、2017年UDCOが運営を開始した。

### センターの活動概要

#### ■学習・研究・提案

・多くの主体がまちづくりに係わることができる機会を創出し、学習・研究・提案に加え人材育成を進める。

#### ■実証実験・事業創出

・公共空間やオープンスペースの利活用を推進し、まちのストックの最大活用と、まちの魅力や価値の向上を図る。

#### ■デザインマネジメント

・質の高い空間デザインを提案し、行政計画やまちづくりプロジェクトへの企画、提案を行う。

#### ■エリアマネジメント

・安心・安全かつ快適な都市空間や生活環境の実現とともに、将来にわたって発展し続けるまちとなるため、地域と連携したエリアマネジメントに取り組む。

### 今後の活動の展望・課題

各種活動の具体化、産官学民それぞれの主体との継続的な関係構築



まちラボおおみやエントランス



施設内観

#### 組織形態

一般社団法人

#### 構成団体

さいたま市 (ほかは個人)

#### 代表者

代表理事 工藤和美(東洋大学教授)センター長

#### 実務体制

常駐スタッフ4名(法人運営事務、都市建築専門職)  
いずれも法人の直接雇用

#### 施設概要

活動拠点: まちラボおおみや(面積: 約157㎡)

株式会社浜友商事と一般社団法人アーバンデザインセンター大宮(以下、法人)が無償の賃貸契約を結び、法人が管理・運営を行っている。

講演会やトークイベント、会議等を行えるイベントスペース、各種展示に利用できる展示スペース、UDCOの事務室となるオフィススペースで構成。今年度中改修工事で自由な書籍閲覧及び小規模なミーティング等を行えるラウンジスペースの設置を予定。

#### 問合せ先

〒330-0802 埼玉県さいたま市大宮区宮町1丁目60番地  
大宮ラクーン8階まちラボおおみや内  
TEL 048-782-9679 / FAX 048-782-9680  
E-MAIL info@udco.jp  
<http://www.udco.jp/>



「みんなのひろば」の賑わい



「アーバンデザインスクール」の様子



「風景づくり夏の学校」(アーバンデザインプレスクール)

## 松山アーバンデザインセンター [UDCM]

2014年4月1日設立、2014年11月1日拠点施設開設  
愛媛県松山市 既成市街地エリア



### 活動エリアの状況と課題

松山市(人口約52万人)の中心市街地、いわゆる街なかと呼ばれるエリア。JR松山駅から伊予鉄松山市駅を経て、道後温泉まで至る範囲。

人口減少・超高齢化やモータリゼーション等に伴う、空洞化や賑わいの衰退等を克服し、歴史・文化を活かした持続可能な都市に再生することが課題となっている。また、戦災復興期から高度経済成長期にかけて形成された都市基盤施設が老朽化したり、時代に合わなくなったりするなどして中心市街地は更新の時期を迎えており、これら都市空間の更新事業を適切に進める必要がある。

### 設立経緯

まちづくりに取り組むにあたってあらゆる関係者の力を総結集する手立てが模索されるなか、羽藤英二東京大学教授による「公・民・学」の連携によるまちづくり拠点の設置提案をきっかけに、2014年2月に「公・民・学」の連携組織として松山市都市再生協議会が設立され、その執行組織としてUDCMが設置された。2014年4月に、愛媛大学に松山市都市再生協議会による寄付講座が開設し、同大学が専門家の雇用や活動費の執行、事業契約を行う体制を整え、実働を開始した。また、UDCMの活動拠点は、2014年11月に、中心市街地にオープンした。

### センターの活動概要

- ①空間デザインマネジメント：【創る】
  - ・公共空間・施設のデザインに係る調整・助言
  - ・民間建築物の景観誘導に係る助言・支援
  - ・民間再開発の調整・支援
  - ・将来ビジョンの検討
  - ・研究活動
- ②まちづくりの担い手育成：【学ぶ】
  - ・アーバンデザインスクールの運営(松山市と周辺市町)
- ③賑わいの創出：【交わる】
  - ・みんなのひろばともぶるテラスの運営
- ④情報発信：【知る】
  - ・まちなかマガジン「もぶる」の発刊
  - ・ラジオ番組「まち@ラヂ」の放送

### 今後の活動の展望・課題

- ①まちづくりの将来像を描き、新たな事業創出を行うシンクタンク機能の強化
- ②UDCMの拠点施設をハブに地元を巻き込みながら仕組みづくりを行うエリアマネジメントの枠組み整備
- ③人材育成、拠点施設の運営、情報発信といったソフト事業と都市整備事業などのハード事業との連動
- ④持続的な運営体制の構築



施設外観



施設内観

#### 組織形態

管理運営組織としての「松山市都市再生協議会」(任意団体)と、執行組織としての「松山アーバンデザインセンター」(任意団体)という2層構造

#### 構成団体

「公」:松山市  
「民」:松山商工会議所、伊予鉄道株、(株)まちづくり松山  
「学」:愛媛大学、松山大学、松山東雲女子大学、聖カタリナ大学、東京大学

#### 代表者

都市再生協議会会長:矢田部龍一(愛媛大学防災情報研究センター特命教授)  
センター長:羽藤英二(東京大学大学院工学系研究科教授)

#### 実務体制

常駐スタッフ6名(内、事務1名、受付1名)  
その他、プロジェクトアドバイザー、客員研究員、市内4大学の教員によるアーバンデザインスクール運営委員などの非常勤スタッフ、学生アルバイト、市民ボランティアなど。

#### 施設概要

中心市街地において市街地再開発事業に向けた機運が高まる松山銀天街L字地区に設置。民間商業ビル2階に事務所を構え、同ビル1階に多目的スペース(もぶるラテス)を、道路を挟んだ前面に広場(みんなのひろば)を伴う。

#### 問合せ先

〒790-0012  
松山市湊町 3-7-12 松山アーバンデザインセンター  
TEL: 089-968-2921 E-mail: udcmmatsuyama@gmail.com  
<http://udcm.jp/>



高質化整備を行った調整池"アクアテラス"



まちづくりスクール



柏の葉キャンパス駅周辺エリア

## 柏の葉アーバンデザインセンター[UDCK]

2006年10月18日設立、2006年11月20日拠点施設開設  
千葉県柏市北部 柏の葉エリア

柏の葉  
アーバン  
デザイン  
センター

UDCK

Urban Design Center Kashiwa-no-ha

### 活動エリアの状況と課題

つくばエクスプレス開通に伴い、沿線で大規模な土地区画整理事業が行われているエリア。駅前では三井不動産が中心となって、住宅・商業・業務等の開発が進む。近接して、東京大学や千葉大学、国の研究機関が多数立地。駅を拠点とする大規模開発をマネジメントしながら、知の資源や民間の活力を最大限に生かした次世代環境都市・国際学術研究都市を実現することが、まちづくりの大きなテーマとなっている。

### 設立経緯

大学と連携したまちづくりが模索されるなか、北沢猛東京大学教授による「公・民・学」の連携したまちづくり拠点の設置提案をきっかけに、行政・企業の協力体制が生まれ、提案から約半年での施設オープンにこぎつけた。

### センターの活動概要

当エリアの将来ビジョン『柏の葉国際キャンパスタウン構想』を、県・市・大学と共に作成し、民間も参画して毎年フォローアップを実施。UDCKが全体の推進事務局となっている。

#### ①教育・研究活動

- ・まちづくりにかかわる調査・研究・立案
- ・市民向けのまちづくり学習プログラムの企画・運営(まちづくりスクール)
- ・大学の地域連携教育の支援(都市環境デザインスタジオ)

#### ②実証実験・事業創出

- ・新技術を活用した次世代型インフラやサービスの導入にかかわる地域連携支援
- ・モニター募集や登録受付業務

#### ③空間デザインマネジメント

- ・公共空間・公共施設のデザインにかかわる調整、アドバイス
- ・民間建築物の景観誘導に係る助言・支援
- ・啓発活動

#### ④エリアマネジメント

- ・駅周辺公共空間(駅前通り・調整池)の管理運営
- ・公・民・学をつなぐ地域コミュニティの育成と活動支援
- ・賑わい創出に係るイベントの企画、調整
- ・ポイントプログラムの運営事務

### 今後の活動の展望・課題

- ①概成した駅前街区の外側ブロックにおける開発戦略検討(土地利用誘導、景観誘導による、研究開発住宅複合ブロックの形成)
- ②地域参画による持続的なエリアマネジメントの枠組みの整備
- ③まちの国際化の推進と大学連携の強化による、国際キャンパスタウンとしての環境の充実化



施設外観



施設内観

#### 組織形態

各構成団体の代表者で運営委員会を構成し、運営基本方針を決議。任意団体をベースとしつつ、別途同名の一般社団法人を設立し、直接的な事業を担ったり、法に基づく指定等を受ける。

#### 構成団体 (運営委員会)

- 「公」: 柏市
- 「民」: 三井不動産(株)、首都圏新都市鉄道(株)、田中地域ふるさと協議会
- 「学」: 東京大学、千葉大学

#### 代表者

運営委員長・センター長 出口敦(東京大学教授)  
※法人の代表理事も兼務

#### 実務体制

常駐スタッフ7名、受付1名、事務1名  
(都市建築専門職2名、施設企画1名、エリマネ地域活動1名、市職員1名、視察管理1名、健康まちづくり1名)

#### 施設概要

現施設(第三期)は、東京大学の社会連携拠点(柏の葉キャンパス駅前サテライト)1階155㎡を利用。柏市まちづくり公社が東大と契約し、UDCKの施設管理を行う。ラウンジスペース、受付スペース、スタッフ事務スペースで構成。

#### 問合せ先

〒277-0871 千葉県柏市若柴178-4 柏の葉キャンパス148-4  
東京大学柏の葉キャンパス駅前サテライト103  
TEL: 04-7140-9686 E-mail: info@udck.jp  
<http://www.udck.jp>



tvk+UDCY futurecafe'mobility design cafe'



UDCY2013「すますま」編集会議



子安浜クルーズ

## アーバンデザインセンター横浜 [UDCY]

2008年4月設立  
神奈川県横浜市全域



### 活動エリアの状況と課題

1965年の都市づくり構想, 1971年のアーバンデザインチーム発足に端を発する中で, 横浜市では行政を中心とした都市デザイン活動が展開され, その後も歴史を生かしたまちづくり, 商店街, 水と緑, 住民参加, 郊外まちづくりなどの展開, そして2000年代には芸術文化創造都市・横浜を核とした様々な展開が行われていたが, 社会・経済・産業構造の変革に伴い, これからの横浜が持続的に魅力を維持育成するための, 長いレンジも視野に入れた実践的活動が必要とされているとともに, 公×民×学が連携して相乗効果を発揮する体制作りが必要である。

### 設立経緯

2007年, BankART Schoolで行われたUDSY(アーバンデザインスタディ横浜)研究会において100名の参加者によって検討された「未来社会の設計」(都心・郊外・緑・環境・移動に関する諸提案)の実現に向けて北沢猛東京大学教授を中心に設立された。

### センターの活動概要

横浜の魅力ある都市づくりを専門的個人の立場で考える有志の集まりによる「ネットワーク型シンクタンク」を目指して, 「研究クラスター(コア・スタディーズ:分科会)」と「クロスプラットフォーム(フューチャーカフェ)」を核とした活動を行っている。

#### 【第1期】2008年(設立前を含めると2007年)~2010年

UDSY研究会で検討された, 横浜における将来提案とこれを実践する道筋を考えるべく活動を行った。UDSYで生まれた提案を基とした政策・プロジェクトの実施(ヨコハマ・エコ・スクール[YES], 横浜グリーンパワー)や継続的な活動(郊外班・交通班など), およびフューチャーカフェにおけるクロスセッションを実施した。また, UDSYでの活動は, 大学まちづくりコンソーシアムによる『海都横浜構想2059』(インナーハーバー整備構想)の提言, 北仲スクール・YCCスクール(大学及び市創造都市部局の連携による創造都市の担い手育成)の実施にも間接的に展開している。

#### 【第2期】2012年~2014年

モビリティデザインカフェ(フューチャーカフェ)の実施による「モビリティ」を契機とした広い市民や多様な専門家を交えた議論の展開と活動の育成(team yokohama premium, DEEP吉田班, 市電班, 自転車班, 水辺班, クリエイティブシティ班, 健康班)を行った。また, 分科会活動(住まい・住まい方班, 健康都市づくり班, インナーハーバー班, ものづくり班, 文化政策班等)の実施, 特に「住まい・住まい方」班(スマスマ編集会議, 住まい・住まい方カフェなど)を積極的に展開している。

#### 【第3期】2014年~

より豊かな次なる発展的活動を図るために, 体制・仕組みについて検討中である。

### 今後の活動の展望・課題

- ①コアスタディーズ(分科会)活動の充実化
- ②地域拠点との連携(UDCN・たまプラーザ拠点等)
- ③研究情報・地域情報・成果の蓄積(シンクタンク化)
- ④幅広い参加者の獲得・連携ネットワークの構築



会議風景



会議風景

### 組織形態

公・民・学連携を実現すべく, 横浜アーバンデザイン研究機構(代表役員:大江守之[慶應義塾大学教授], 阿部守一[元横浜副市長], 北沢猛[東京大学教授], 委員24名, 顧問1名)およびその事務局としてのUDCY(アーバンデザインセンター横浜)という体制で発足した。

### 構成団体

「公」:横浜市, 横浜市芸術文化振興財団ほか  
「民」:設計事務所, 都市計画コンサルタント, 各種企業・会社ほか  
「学」:横浜市立大学, 横浜国立大学ほか

※基本的には, 各自個人の立場で参加しているが, 構成メンバーの所属は上記のような分野にわたっている。

### 代表者

### 実務体制

2012年時点のメンバー23名

### 施設概要

常設施設はない。時期・状況に応じて, 各種施設を利用。  
(tvk会議室, tvk NEWS HARBOR, NTT東日本神奈川支店 GreenTerrace, さくらワークス<関内>[横浜市立大学COC 関内拠点], 宇徳ビル ヨンカイほかで活動)

<https://www.facebook.com/UrbanDesignCenterYokohama>



「都路町住生活基本構想」に基づく公的住宅整備計画の検討



社会実験(大越娛樂場の活用)



駅を中心としたコンパクトなまちづくり検討(神保駅周辺ワークショップ)

## 田村地域デザインセンター [UDCT]

2008年8月設立  
福島県田村市

田村地域  
デザイン  
センター  
UDCT

### 活動エリアの状況と課題

田村市は、阿武隈高原の中央に位置し、平成17年3月1日に田村郡7町村の内、滝根町、大越町、都路村、常葉町、船引町の旧5町村が合併し形成。福島県の中核的都市である郡山市まで約30km の位置にあり、福島県の中通りにおいて浜通りとの結節点となる地域。阿武隈高原の変化に富む地形に抱かれ、コンパクトな都市形態を構成。農林業が維持されている一方、中心市街地の空洞化が急速に進んでいる。2011年3月の東日本大震災後、市東部の都路町の一部に避難指示が出されたが2014年4月に全面的に解除された。震災と原発事故による避難指示を経た地域の復興、および少子化高齢化の進む中での地方小都市のコンパクトなまちづくりに取り組んでいる。

### 設立経緯

田村市と東京大学(北沢猛教授+空間計画研究室)の共同研究により地域密着型のシンクタンク機能の設置が提案され、翌年、公・民・学が連携する地方小都市型のアーバンデザインセンターとして設立された。

### センターの活動概要

#### ■各町での住民主体のまちづくり支援

旧5町村(滝根・大越・都路・常葉・船引)の地域単位で住民と共同で、まちづくりの方針をつくり、次年度にそれに基づいた社会実験を実施、次々年度以降地元主体の取り組みとして継承。

各地域でまちづくり協議会が設立されており、地域主体の活動の支援を行っている。

### 今後の活動の展望・課題

■これまでに旧町村を一巡し、住民主体の取り組みに継承されつつある住民協働のまちづくり活動の自立的、持続的な活動への発展

■公的賃貸住宅整備、駅舎・駅前広場等拠点整備、文化施設整備、小学校跡地活用、都市マスの見直し等の市が実施する事業実施支援

■地域(市・住民)が中心となったUDC機能の継続。



施設外観



施設内観

#### 組織形態

任意団体  
運営委員会により運営の基本方針を決議。

#### 構成団体

「公」: 田村市  
「民」: 田村市行政区長連合会  
「学」: 東京大学

#### 代表者

運営委員長・センター長 出口敦(東京大学教授)

#### 実務体制

常勤スタッフ2名(都市建築担当1名、事務担当1名)  
非常勤スタッフ3名(市建設課1名、都市建築担当2名)  
このほか、市庁内に部課を横断する市まちづくりプロジェクトチームを設置。協働まちづくり課・都市計画課・企画課・商工観光課・各町の行政局職員で構成。

#### 施設概要

田村市の船引駅前商店街の中心に位置する空き店舗を活用して設置。個人所有の2階建ての店舗賃貸。床面積約90㎡。事務スペース、打ち合わせ・展示・イベント等に使うスペース、倉庫・キッチン・トイレ。

#### 問合せ先

〒963-4312 田村市船引町船引字五升車37  
田村地域デザインセンター[UDCT]  
TEL 0247-82-6110  
E-mail: udct-info@abnet.or.jp  
<http://www.udct.jp/>



提案公募によるまちづくり支援(須賀川市稲田地区)



提案公募によるまちづくり支援(並木地区)



復興支援活動(ワンデーシェフイベント)

## 郡山アーバンデザインセンター [UDCKo]

2008年11月設立  
福島県郡山市およびその周辺

# UDCKo

### 活動エリアの状況と課題

郡山市は、東北部の福島県中通りのほぼ中央に位置する、東北地方では仙台に次ぐ経済規模を有する地方中核都市。南北に東北新幹線・東北本線・東北自動車道が通り、磐越東線、磐越西線、磐越自動車道が通る交通の結節点。面積757km<sup>2</sup>、人口約34万人の中核市。江戸期までは奥州街道の宿場町であったが、明治期に猪苗代湖を水源とする安積疎水が開削され都市化が進んだが、近年中心市街地の衰退は著しい。郡山市並木地区は、JR郡山駅から北西2kmに位置する面積約70haのエリア。住宅・農地・商業業務が混在する地方中核都市の典型的な郊外エリアである。

### 設立経緯

以前より並木地区に立地する企業と町会で、並木地区をより魅力あるエリアにしていくことを模索していた。地域側から北沢猛東京大学教授(故人)に協力を求め、大学の専門家が加わり、「公・民・学」が連携する地方中核都市版・民間主導型のアーバンデザインセンターが設立された。

### センターの活動概要

#### ①提案公募による地域づくり支援

提案公募により全国の専門家が地域に関わる機会づくりを行っている。第1回を郡山市並木地区を対象に、第2回は須賀川市稲田地区を対象に、まちづくり提案を公募した。最優秀に選ばれた専門家が地域まちづくりに参画している。

#### ②行政計画づくりの支援

北塩原村では観光計画の策定、会津美里町では総合計画策定の業務に協力している。

#### ③復興支援活動

東日本大震災直後にセンター内に復興支援室を設置し、避難所への支援物資の搬入や仮設入居者のためのイベント等、被災者への支援を行っている。2016年4月にも支援イベント「佐賀は3.11を忘れない 佐賀の器と気持ち展」を実施。

### 今後の活動の展望・課題

#### ①民間と行政の協働

並木・稲田では民間中心の取り組みであり、北塩原・会津美里では行政中心の取り組みとなっている。両者協働での取り組みを促進していく。

#### ②恒常的なセンター機能

現状ではプロジェクトごとの委託費や補助金により、その都度専門家等とチームをつくり活動を行っているが、恒常的なセンター機能が求められる。そのため人材や資金の確保が必要。



施設外観



施設内観

#### 組織形態

特定非営利活動法人

#### 構成団体

「公」:並木町会

「民」:地元企業に所属する個人

「学」:東京大学

#### 代表者

理事長:清家剛(東京大学准教授)※センター長兼任

#### 実務体制

地元企業スタッフ1名が事務局を務める。

プロジェクトごとに大学の専門家や建築家等とチームをつくり実務にあたる。センターの窓口は企業ショールーム受付が兼任している。

#### 施設概要

郡山市並木にある地元企業ラボット・プランナー(株)の所有する住関連ショールーム(LABOTTO)内のスペース26m<sup>2</sup>を借用。事務スペース、打ち合わせスペース、進行中プロジェクトのパネル展示スペース。

#### 問合せ先

〒963-8026福島県郡山市並木2-1-1(LABOTTO内)

TEL: 024-995-5855 E-mail: info@udcko.jp

<http://www.udcko.jp>



公共空間の新しい使い方の提案(おそとりピング)



コミュニティの創出と育成(まちな学校)



アイランドシティ遠景

## アイランドシティ・アーバンデザインセンター [UDCIC]

2012年10月28日設立  
福岡県東区香椎照葉 アイランドシティ



### 活動エリアの状況と課題

福岡市東区に位置し、陸海空の交通結節点半径10km圏内にある立地特性を活かしながら、21世紀の先進的なモデル都市として新しい「みなとづくり・まちづくり」の推進を目的に、1994年より総面積401.3haの埋立事業として開始された。その内191.8haを占めるまちづくりエリアにおいては、2005年のまちびらきから9年を経て現在人口約5900名、約1900世帯のまちに発展している。開発・土地分譲は2027年度まで続き、最終的には居住人口18000人、就業人口18000人の都市に成長する計画である。

まちづくりエリアの中でも既に開発されまちとして今後成熟に向かうエリア(博多港開発工区97.2ha)と今後新たに開発されるエリア(福岡市5工区94.6ha)の進展に伴う都市活動の変化に対応した取り組みや活動が今後の課題として求められている。

### 設立経緯

福岡市が目指す先端モデル都市アイランドシティにおいて、出口敦東京大学教授による「公・民・学」が連携したまちづくり拠点の設置の提案をきっかけに、行政・企業・大学の協力体制が生まれ、センターの前身となる「アイランドシティまちづくり支援室」、「まちづくり情報発信センター」設置後1年半で施設オープンにこぎつけた。

### センターの活動概要

#### ■まちづくり活動の実施・支援

・様々な団体等が主体的に行う「多様性」を進める事業(まちな学校/コトノハ運営委員会/子ども会など)

#### ■まちのデザインの研究

・持続可能なまちづくりの仕組み/公共空間の魅力化と文化創造/スマートモビリティの構築とマネジメント/景観マネジメント

#### ■大学・企業による調査・研究等の実施・誘致

・実証実験の企画・実践/教育プログラムにおける調査・提案

#### ■連携・交流の場の創出

・センター施設/公園・緑地や未利用地、公開空地など公共空間

#### ■情報発信・プロモーション

・WEBや自主媒体、パブリシティ活動などによる情報発信  
・まちの価値を向上させるための戦略的なプロモーション活動

#### ■自立的な運営に向けた検討・取り組み

・将来、まちのマネジメント組織となり得るような体制づくり  
・市税に頼らない新たな財源確保と収益を生む事業の構築

### 今後の活動の展望・課題

- ・きめ細かなエリアマネジメント業務とアーバンデザインや交通施策など高度な専門性を要する業務とを両立させた運営
- ・自主財源の確保、自立した事業体としての運営体制の確立



企画会議の様子



施設内観(～2017/3 現在閉鎖中)

#### 組織形態

アイランドシティ・アーバンデザイン協議会(任意団体)の下部組織(実施機関)。

#### 構成団体 (協議会)

「公」:福岡市

「民」:照葉校区自治協議会、アイランドシティ立地企業等連絡協議会、博多港開発株式会社

「学」:九州産業大学、九州大学、福岡工業大学、福岡女子大学

#### 代表者

協議会委員長:安浦寛人(九州大学副学長)

センター長:坂井猛(九州大学大学院教授)

#### 実務体制

人数:常勤スタッフ0名、非常勤スタッフ3名。(2017年4月)

#### 施設概要

専用施設は予算の都合により、2017年3月末に閉鎖しており、現時点でなし。組織は存続している。

#### 問合せ先

福岡市港湾空港局アイランドシティ事業部まちづくり推進課

TEL: 092-282-7045

E-mail: machizukuri.PHB@city.fukuoka.lg.jp



身体機能測定・健康相談会



研究会の様子



オープニングイベント

## UDCN 並木ラボ

2014年3月15日設立  
神奈川県横浜市 金沢シーサイドタウン(並木1丁目~3丁目)



### 活動エリアの状況と課題

1970年代末に入居の始まった金沢シーサイドタウンは6大事業の一つである金沢地先埋立事業で計画されたニュータウンである。計画にあたっては、榎文彦、神谷宏治、藤本昌也、内井昭蔵、宮脇檀といった著名建築家を起用し、西脇敏夫、北沢猛らが都市デザインを担当した。しかし、現在は居住者の高齢化、空室の増加、建物の老朽化といった課題が顕在化しつつある。地区の人口は18714人、8178世帯(2014年)であるが、このうち65歳以上の高齢者のいる世帯比率は39.1%と高く、5年間で約1170人の居住人口減少が見られる。また、センター地区(商業地区)では空き店舗の増加やキーテナントであるスーパーマーケットの撤退などの問題も抱えている。

### 設立経緯

2013年に横浜市立大学が地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)に採択されたことをきっかけとして、団地再生のモデル事業として同大学により設立された。

横浜市金沢区に位置する金沢シーサイドタウン内の並木センター地区の空き店舗を活用して、地域住民と協働しながら、金沢シーサイドタウンの抱える諸課題について、調査研究と活性化支援を行うことを目的としている。

### センターの活動概要

#### ■コミュニティ活性化支援

- ①住民主催によるセミナー(暮らし、環境、PC、音楽)などの開催
- ②市大の教員・学生による公開形式のレクチャー等の実施
- ③コミュニティカフェ
- ④市民まちづくりグループの活動支援
- ⑤市民グループとの協働によるイベント(屋外映画上映会、星空観望会など)
- ⑥地元商店会の活動支援

#### ■健康なまちづくりの支援・実践

- ①高齢者の健康・ライフスタイルについての大規模調査
- ②医学部教員による健康づくり、健康・生活相談講座の定期開催
- ③ウォーキングポイント(市健康福祉局事業)情報リーダー設置、ウォーキングスタンブラリーのチェックポイント等、行政との連携

また、日常的には、住民間の交流の場として、場所を開放しており、子育て期の住民から高齢者グループなどに気軽に利用していただいている。

### 今後の活動の展望・課題

大学COC事業自体は2017年度までの事業期間であり、終了後も継続することを目指して、今後は住民や地域団体との協働による運営体制の確立が課題である。

ラボの利用者は増えつつあり、行政や関係団体も含めた運営協議会を2015年度後半より開始したが、これを実際の運営につなげることが当面の課題である。また、すでに連携しているUR・公社に加え、新交通運営会社、産業団地との連携も進め、エリアマネジメントの機能を備えた組織への発展も目標のひとつとしている。



施設外観



施設内観

#### 組織形態

横浜市立大学COC事業の一環として運営。

#### 構成団体

横浜市立大学

#### 代表者

COC事業責任者: 鈴木伸治(国際総合科学部まちづくりコース教授)

運営責任者: 三輪律江(国際総合科学部まちづくりコース准教授)

運営担当: 中西正彦(国際総合科学部まちづくりコース准教授)

#### 実務体制

横浜市立大学国際都市学系まちづくりコースの教員(三輪律江、中西正彦)、学生が中心となり運営がなされている。

#### 施設概要

金沢シーサイドタウン・センター地区内に位置し、面積は約60㎡。講義やワークショップ、ミーティングなどを行うスペースと小規模なキッチンを備える。

#### 問合せ先

〒236-0027神奈川県横浜市金沢区瀬戸22-2

横浜市立大学地域貢献センター

TEL: 045-787-2205 E-mail: coc@yokohama-cu.ac.jp

<https://www.facebook.com/namiki.ycu>



柑子岳ハイキング



地区周辺の遠景

## アーバンデザイン会議九大 [UDCQ]

2007年3月23日設立  
糸島半島(福岡市西区・糸島市)

### 活動エリアの状況と課題

糸島半島では、九州大学が2005年10月の伊都キャンパス誕生から段階的な移転を進めており、2018年を目標とする移転完了時には、約2万人の学生・教職員が活動する舞台となる。周辺地域では、鉄道新駅設置やアクセス道路などのインフラを整備し、土地区画整理による新市街地が形成されており、多様な主体が連携・協同して、伊都キャンパスを核とした学術研究都市づくりを進めている。

### 設立経緯

九州大学の糸島半島への移転と九州大学学術研究都市構想を進めるなかで、六本松地区からの全学教育課程の移転を控え、まちづくりのスムーズな展開が求められていたことから、公民学の共同による任意団体として発足した。

### センターの活動概要

定期的にテーマを選定して会議を開催し、30名程度の参加者と意見交換等を行い、交流を図っている。2016年度の開催実績は以下の通りである。

- 第45回「大好きなまちをつくるために」
- 第46回「学術研究都市の実現に向けて」
- 第47回「日本建築学会 大学・地域デザイン小委員会  
情報交流シンポジウム ～大学立地は都市を変えたか～」
- 第48回「九州大学アカデミックフェスティバル2016  
～九大が楽しくわかる一日～」

### 今後の活動の展望・課題

引き続き定期的に会議を開催し、多様な主体の交流による連携・協同の体制を強化しつつ、移転完了・成熟期を見越し、国際化にも対応できるまちづくりを推進する。



会議場所として使用しているビッグオレンジ



会議風景

#### 組織構成

任意団体

#### 構成団体

「公」:福岡市、糸島市、公益財団法人九州大学学術研究都市推進機構(OPACK)

「民」:元岡町内会、桑原町内会、九大新町町内会、元岡商工連合会

「学」:九州大学

#### 代表者

議長:安浦寛人(九州大学理事・副学長)

#### 実務体制

専任スタッフはなし。

ディレクターが実務を担当している。

#### 施設概要

なし。会議の会場として、伊都キャンパスの情報発信拠点施設であるビッグオレンジを活用している。

#### 問合せ先

〒819-0395福岡市西区元岡744

九州大学キャンパス計画室 助教 津留真哉

TEL: 092-802-2096

E-mail: tsuru.shinya.789@m.kyushu-u.ac.jp

<https://www.facebook.com/>

アーバンデザイン会議九大-UDCQ-293966417604989/



## アーバンデザインセンターみその [UDCMi]

2015年10月17日設立  
埼玉県さいたま市美園地区



### 活動エリアの状況と課題

市東南部にて、大規模な都市開発が進むエリアを中心にその周辺も含めて活動対象フィールドとしている。交通利便性の高い地区で、2001年3月に開業した埼玉高速鉄道線「浦和美園駅」周辺では「みそのウイングシティ」の愛称のついた区域も含め計5地区・合計約350haの土地区画整理事業が市・UR・組合施行により進められてきた。2017年2月にはUR施行区域(約260ha)の換地処分が済み、土地活用が本格化してきている。本地区に立地する「埼玉スタジアム2002公園」が2020年東京五輪での会場利用も予定されるなか、市上位計画に位置づけられた“市の副都心”に相応しい新市街地として、夜間人口・昼間人口・交流人口の増加を図っていく上では、サステナブルな次世代都市として各種都市機能や生活利便サービス等の充実、高質で快適な都市環境の形成を“タイムリミット”を見据えて進めることが喫緊の課題となっている。

### 設立経緯

市全域を対象とした地域活性化総合特区「次世代自動車・スマートエネルギー特区」に係るモデル事業が「みそのウイングシティ」内で企画された事を契機に、市の2013年度～2016年度重点施策をまとめた『しあわせ倍増プラン2013』において、市東部地域の成長・発展推進のため2015年度末までの「アーバンデザインセンターみその設立」が位置づけられた。2014年度から大学・民間企業・行政参画のもとセンター設立に向けた具体的検討が始まり、2015年10月に設立となった。

### センターの活動概要

2017年4月策定・公表の『美園スタジアムタウン憲章』の具現化に向けた取り組み。

#### ■デザインマネジメント

・憲章に即して策定した『みその都市デザイン方針』に基づく先導事業の検討・実践

#### ■メンテナンスマネジメント

・整備された都市環境・施設等を安心・安全かつ快適に維持していくため、エネルギーセキュリティの確保を中心に、まちのファシリティマネジメント連携・効率化(事業化)

#### ■サービスマネジメント

・居住者や来街者が快適・便利で健康的に過ごせる生活環境の実現に向け、ICT・IoT技術等を活用した地域サービスの事業化  
・前項の各種個別サービスに係るデータを収集・管理・活用する地域情報基盤システムの構築・実証および運用事業化

#### ■プロモーションマネジメント

・まちの魅力発信や来街促進に向けた外部展示会出展、大規模イベント誘致・開催支援  
・地域交流促進に向けたコミュニティ形成企画の事業化

### 今後の活動の展望・課題

- ・良好な市街地環境の早期ビルドアップと将来持続性を見越した成長コントロール
- ・「スマートシティさいたまモデル」の構築・発信を牽引する先導プロジェクトの自走収益モデル構築
- ・見沼田圃等の地域資源を活用した地域プロモーションや、新旧住民の交流促進



#### 組織形態

主としてソフト事業を推進する「美園タウンマネジメント協会」の地域プロモーション事業の一環としてセンターを設置・運営。別途、ハード分野の協議・調整を行う「みその都市デザイン協議会」も組織。両組織の事務局を務める(一社)美園タウンマネジメント(以下、一社TM)がセンター運営実務も担う。

#### 構成団体(美園タウンマネジメント協会)

「公」:さいたま市

「民」:一社TMを含む市内外企業33社

「学」:慶應義塾大学、工学院大学、芝浦工業大学、東京電機大学

#### 代表者

最高顧問:梅本和典(元イオンリテール特別顧問)

会長:西宏章(慶應義塾大学教授)

#### 実務体制(一社TM)

常勤スタッフ5名:副センター長(一社TM専務理事、センター運営全般統括+まちづくり戦略)、事務局長(一社TM事務局長、経営戦略)、ICTまちづくり担当(一社TM事務局長)、コミュニティ企画担当(一社TM事務局長)、エネルギーマネジメント担当(一社TM事務局長)

#### 施設概要

浦和美園駅西口駅前の空きテナントを活用して開設。約140平方メートル弱。事務室、ワークショップスペース、展示コーナー、倉庫・給湯室・トイレ等で構成。

#### 問合せ先

〒336-0962 埼玉県さいたま市緑区下野田 494-1 オークリーフ 1F  
アーバンデザインセンターみその (UDCMi)

TEL: 048-812-0301 E-mail: info@misono-tm.org

<http://www.misono-tm.org/udcmi/>



設立シンポジウム 横浜海洋市民大学

## 横浜海洋環境みらい都市研究会 [UDC-SEA]

2015年10月設立  
横浜市等臨海部及び臨海市街地



### 活動エリアの状況と課題

「横浜」と名の付く通り、海に抱かれた(海を抱いた)まちである横浜市臨海部および臨海市街地を舞台に、「うみ」「みなと」と「まち」の関係性を公×民×学連携、および市民参画を通して再構築することを目指し、21世紀の「横浜海洋環境みらい都市」のありようを考察し、提言することを目的としている。

### 設立経緯

将来的には低未利用化の可能性もある都心臨海部(港湾部等)に対して、2008年頃から検討・立案されてきた、通称「インナーハーバー構想」(海都横浜構想2059、都心臨海部再編整備マスタープラン等)を始めとした将来像の検討や、環境・エネルギー面からの検討(横浜市環境未来都市計画、ブルーカーボン事業他)、横浜海洋市民大学(2014年度～)による市民参画なども進められつつある中で、21世紀の国際海洋環境都市としてのありようを考察し、新たな視点から政策提言を行っていくことを視野に入れて、信時正人[前横浜市温暖化対策統括本部理事]、松田裕之[横浜国立大学教授]を代表として発足した。なお、2008年度に発足したUDCY(アーバンデザインセンター横浜)でのネットワークやノウハウも活かしながら、発足に至っている。

### センターの活動概要

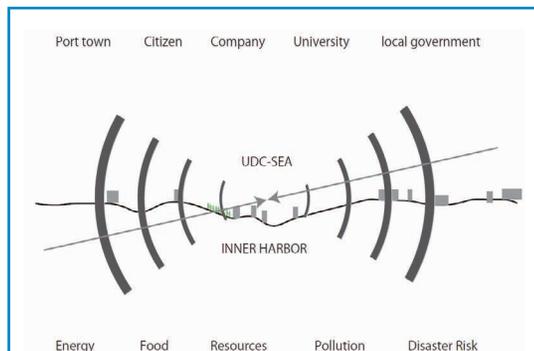
横浜の魅力ある都市づくりを専門的個人の立場で考える有志の集まりによる「ネットワーク型研究」を目指して、地球温暖化や生態学的アプローチ、まちづくり・都市デザインのアプローチ、エネルギー的アプローチによる3つの分科会(月に一度程度の研究会+公開研究会等)により研究・実践推進を行いつつ、横浜海洋市民大学(年20回程度)を通して、分野の枠を超えた議論を展開しながら、市民意識や地域貢献、市民参画の実現を目指す。

- 【分科会1】きれいな海、豊かな海、海を楽しもう(主査:松田裕之)
- 【分科会2】環境海洋みらい都市のまちづくり(主査:城所哲夫・野原卓)
- 【分科会3】海のエネルギーとまちづくり(主査:吉田聡)
- 【横浜海洋市民大学】(主査:川名優孝)

### 今後の活動の展望・課題

一昨年、立ち上げたばかりの組織であるため、進め方、体制、活動の仕組みなどについては、試行錯誤を重ねながら進めている点、母体となる組織(自治体・企業等)との関係性のあり方、活動拠点の構築などが今後の課題である。

- 1.各分科会活動の充実化
- 2.横浜海洋市民大学の継続発展
- 3.研究情報・地域情報・活動実践成果の蓄積
- 4.幅広い参加者の獲得・連携ネットワークの構築



### 組織形態

各自個人の立場で参加する任意団体  
研究員(メンバー)は、3つの分科会(下記参照)および横浜海洋市民大学の活動を中心に活動し、全体統括を事務局・理事を中心に行う形で運営されている。

### 構成団体(参加する個人の所属)

- 「公」: 横浜市ほか
- 「民」: 各種企業・会社、専門家・技術者、市民ほか
- 「学」: 横浜国立大学、東京海洋大学ほか

### 代表者

代表: 信時正人、松田裕之(横浜国立大学教授)

### 実務体制

2016年3月時点、理事・主査6名+事務局(理事・主査除く)6名、研究員28名(理事・主査含む)

### 施設概要

常設施設はない。時期・状況に応じて、各種施設を利用。  
(BankArt1929ほかで活動)

<https://www.facebook.com/UrbanDesignCenterSEA>



健康まち歩き・旧南湖院



まちづくりシンポジウム



行政との意見交換

## アーバンデザインセンター・茅ヶ崎 [UDCC]

2016年8月10日設立  
神奈川県茅ヶ崎市全域



### 活動エリアの状況と課題

茅ヶ崎市は今後10年以内に開発が進み、まちの姿が大きく変わろうとしている。南西部では、(仮称)柳島スポーツ公園が2017年度末に開園予定。その向かいの道の駅は、2019年度の完成を目指し計画が進められ、浜見平団地建替え事業が2022年頃まで続く。北部では、(仮称)茅ヶ崎市歴史文化交流館が2021年4月に開館予定。2017年度から「下寺尾官衙遺跡群」(2015年に国史跡指定)の保存活用事業がスタートした。

開発や施設整備事業に市民、住民、地域が主体的に関わるまちづくりをどのように実現していくかが大きな課題である。

### 設立経緯

前身組織の市民団体「まち景まち観フォーラム・茅ヶ崎」が、首都大学東京の協力を得て地元自治会を支援し、地域が長年要望してきた公園の計画案を作成、市に提案、整備されることになった。この経験から、まちづくりセンターの必要性や可能性について検討を始めた。「景観まちづくりスクール」の開催、景観まちづくりセンターを臨時設置して開催した「景観まちづくりウィーク」を通じアーバンデザインセンターの必要性を認識するようになった。しかしながら、行政が参画する形での「まちづくりセンター」設置が、短期的には困難であることから、NPO法人を設立し、公・民・学の連携でまちづくりに取り組み、拠点施設の設置を目指すことになった。まち景まち観フォーラム・茅ヶ崎は2017年3月31日に解散。

### センターの活動概要

「歩きたくなるまち」「歩きやすいまち」茅ヶ崎の実現のために、美しく・楽しく・安全な都市空間の形成を、公・民・学の連携により進めている。

#### ①景観まちづくり塾

・市民がまちの風景の魅力に気づき、まちづくりに参加する面白さを体感し、市民による実践的な活動が活発になること目指す

#### ②まち歩き音声ガイド

・まち歩きをサポートするGPS付き音声端末のコンテンツ制作や、端末の貸出サービスを含めた活用プログラムの開発を進める

#### ③まち歩きプラットフォーム

・様々な団体が実施しているまち歩きプログラムを統合的に発信できる仕組みをつくる

#### ④誰でも健康まち歩き

・お年寄りをはじめ、誰もがまち歩きをしやすい空間づくり、あるいはサービス提供について検討する

### 今後の活動の展望・課題

設立1年目は、設立記念シンポジウムの主催など法人の存在を周知することを目的とした情報発信に注力してきたが、今後は活動の幅を広げ、新たな地域での事業、新たな団体との協働事業を目指す。また、現在拠点施設はなく、また有償の専任スタッフも存在しないことから、場所と人材の確保にも力を入れていきたい。



活動の様子



まち歩きの様子

#### 組織形態

特定非営利活動法人

#### 構成団体

正会員は10名

(主婦、大学教員、民間企業社員、金融機関社員など)

賛助会員は個人会員5名と団体会員2団体

(特定非営利活動法人まちづくりスポット茅ヶ崎、合同会社アイウェルフェア)

#### 代表者

センター長：高見澤和子(元まち景まち観フォーラム・茅ヶ崎代表)

#### 実務体制

法人の理事メンバー数名を中心に、ボランティアで事務局を担っている。

#### 施設概要

当面は専用施設を持たない

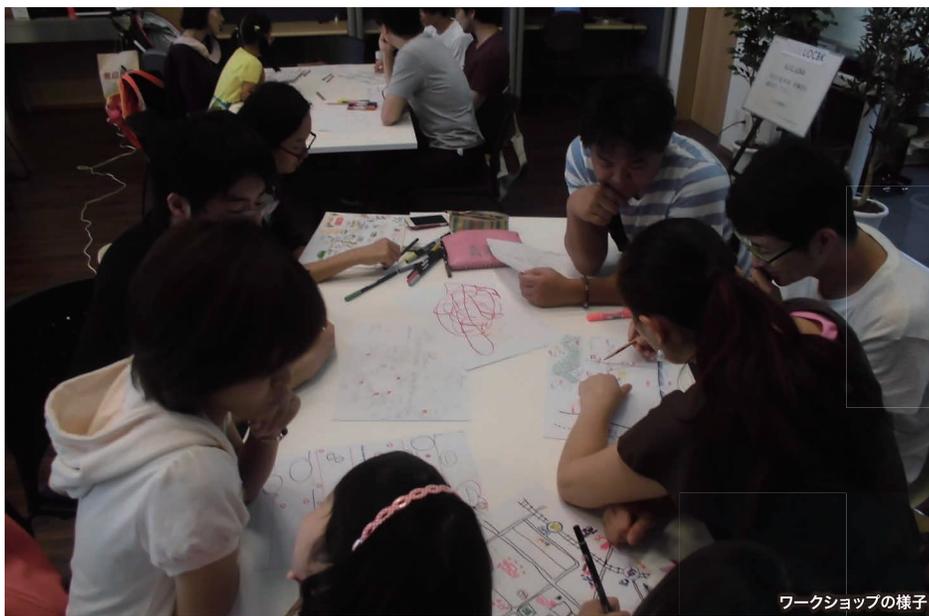
#### 問合せ先

〒253-0028 神奈川県茅ヶ崎市出口町6番49号

TEL: 070-2612-4434

E-mail: [udcchigasaki@gmail.com](mailto:udcchigasaki@gmail.com)

<http://udcchigasaki.com/>



ワークショップの様子



たぶんカフェ



南草津駅前

## アーバンデザインセンターびわこ・くさつ [UDCBK]

2016年10月1日設立  
滋賀県草津市域全域

# UDCBK

### 活動エリアの状況と課題

1994年春に立命館大学びわこ・くさつキャンパスが開校、秋には瀬田駅と草津駅間に南草津駅が開業、2011年には新快速も停車するようになり、京都・大阪のベッドタウンとして急速に集合住宅を中心とした宅地開発が急速に進んだエリアである。また南草津エリアは高速道路のICも近く、大手企業の国内の研究開発拠点となるなど昼間人口も増えている。急速な発展に伴う交通問題や新旧住民の交流する空間がないなどの課題もありつつ、大学や企業の研究開発拠点が集積しており、知の資源や民間活力を最大限に活かした「健幸都市」を実現することが、まちづくりの大きなテーマとなっている。

### 設立経緯

庁内シンクタンクである草津未来研究所の2012年度の調査研究により、産学公民が連携したまちづくりの先進事例としてUDCKが紹介されたことを契機に検討を重ね、2015年度にUDC設立を検討するための懇話会を設置し、草津市版UDC設置が妥当であるとの提案を受け、2016年10月に仮の場所に開設した。2017年8月には新拠点に移転した。

### センターの活動概要

#### ■ 交流・学習活動

- ・誰でもが気軽に自由に集える居心地の良い居場所づくり(サードプレイス事業)
- ・草津市の未来のまちづくりを検討する上で必要なテーマについて学習する機会を提供する未来創造セミナー
- ・市民と専門家を媒介する媒介の専門家を育成するアーバンデザインスクール
- ・その他市役所・大学・企業等と連携したワークショップ等の開催

#### ■ 調査研究

- ・大学と連携した草津市の未来のまちづくりに資する調査研究

#### ■ 社会実験

- ・草津市の未来のまちづくりのための社会実験事業

### 今後の活動の展望・課題

- ① 健幸都市を実現するための「歩いて暮らせるまちづくり」に関連する各種取り組みの強化
- ② 南草津駅を中心としたエリアのタウンマネジメントの枠組みの整備
- ③ 草津市の未来を考えるためのデータセンター機能の検討



施設外観



施設内観

#### 組織形態

草津市総合政策部草津未来研究所の事業として実施  
アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会を組織  
構成団体(委員参加)

- 「公」: 草津市、草津市コミュニティ事業団、草津商工会議所等
- 「民」: 滋賀銀行、パナソニックアプライアンス社、まちづくり協議会及び市民公益団体の役員または構成員
- 「学」: 立命館大学、滋賀大学、京都橘大学、滋賀県立大学

#### 代表者

センター長: 及川清昭(立命館大学教授)

#### 実務体制

常駐スタッフ4名(週1日 立命館大学職員が駐在)  
スタッフ担当: 運営3名 事務1名

#### 施設概要

南草津駅前ビル(フェリエ南草津)5階の草津市市民交流プラザ内に設置(平成28年10月15日から平成29年7月31日)  
南草津駅前の商業施設(西友南草津店)の一階テナントに移転(平成29年8月)  
面積225㎡  
キッズスペースを備えるフロントエリア、机・イスを自由に組み合わせることのできるワークショップエリア、大きなテーブルのある会議エリアが緩やかに繋がるワンルームであり、学習ブース、展示壁、スタッフ事務スペースで構成。

#### 問合せ先

〒525-0059 滋賀県草津市野路 1-13-36 西友南草津店1階  
TEL: 077-562-3932 FAX: 077-562-9323  
E-mail: kusatsumirai@city.kusatsu.lg.jp  
<https://www.facebook.com/UDCBK/>



フロムナード活用社会実験(設立イベント)



設立記念シンポジウム



高島平駅前の様子

## アーバンデザインセンター高島平 [UDCTak]

2016年11月6日設立  
東京都板橋区高島平地域(高島平一丁目から九丁目)

# UDCTak

アーバンデザインセンター高島平

### 活動エリアの状況と課題

高島平地域は、昭和40年代の土地区画整理事業を皮切りとして、昭和50年代前半までの間に「高島平団地」や多くの都市基盤施設が整備され、「団塊の世代」である当時20代~30代前半のファミリー世帯が多く転入する形で、一時に都市が誕生したエリアである。しかし、それから40年以上が経過し、当時の都市基盤施設や建物の老朽化と、少子高齢化の進行、団地を中心に人口減少も進むなかで、地域活力の低下をはじめとした新たな地域課題への対応を含めた、持続的発展を可能とする都市への転換が必要となっている状況である。

### 設立経緯

区が2015年10月に今後の都市再生の方向性を示した「高島平地域グランドデザイン」を策定し、その中で、将来像の実現に向けて、まちづくりの推進機能を担う「受け皿」として、「民・学・公」連携組織の必要性を打ち出した。同年11月にその設立に向けた準備組織が設置され、この準備組織での検討を踏まえ、全国的な広がりを見せている「アーバンデザインセンター」として運営組織体制を構築することとした。そして、2016年11月に都内初のアーバンデザインセンターを設立した。

### センターの活動概要

- (1) まちづくりにかかわる調査・研究
- (2) 空間デザインと公共空間の活用方策検討
- (3) 地区別まちづくりの検討と事業化支援
- (4) 高島平グランドデザインの実現+αにかかわる提案や支援
- (5) 魅力発信、PR
- (6) センター機能の強化と持続的運営の枠組み構築に向けた協議・調整

### 今後の活動の展望・課題

- ・自立的な運営体制の早期確立
- ・拠点づくり
- ・民間事業者や地域活動団体との連携・協働



ヘリテージプロジェクト



フロムナード勉強会

### 組織形態

管理運営のための協議体(理事会)と、現場を担う運営機構の2つの枠組みで構成

理事会は、主要機関(構成団体)からの推薦によるメンバーで構成し、運営機構は、センター長の承認のもと自由な参加を促すオープンな組織としている

### 構成団体(理事会)

- 「公」: 板橋区、UR都市機構
- 「民」: 町会連合会高島平支部、商店街連合会第七支部
- 「学」: UDCネットワーク、学識者個人の立場での参加

### 代表者

センター長: 出口敦(東京大学教授) 理事会副会長兼務

### 実務体制

区職員2名が事務局を担う形で運営支援  
委託事業者を通じて、各種事業の資料作成等のサポートを実施

### 施設概要

当面は専用施設を持たない

### 問合せ先

〒173-8501 東京都板橋区板橋二丁目66番1号  
都市整備部 高島平グランドデザイン担当課  
TEL: 03-3579-2183 FAX: 03-3579-5437  
E-mail: takamachi@city.itabashi.tokyo.jp  
<https://www.facebook.com/UDCTak/>



## おおたクリエイティブタウンセンター [OCTC]

2017年4月18日設立  
大田区全域

### 活動エリアの状況と課題

良質な住宅地から羽田空港まで、大田区は、豊かで多様な地域資源と歴史文化を有しているが、産業構造や社会構造が大きく変化する中で、大田区の地域価値を育み、次世代に受け継いでゆくために、新たな創造的視点も加えた豊かさづくりが求められている。一方、大田区は、23区で最多の町工場数を抱え、世界にも負けない高度な技術を有するものの、工場数や従業員数は大きく減少している。また、大田区は、住宅地としても非常に評価が高く、豊かな生活環境を創り出すために「住工混在」を「住工共生」へと進めるべく、技術・生活・創造を総合的に考えた課題解決が必要とされている。

### 設立経緯

2009年に一般社団法人大田観光協会と首都大学東京+東京大学(その後、横浜国立大学を加えて)により「モノづくり観光研究会」を設立し、地域資源としての「モノづくり」の力を高めるための活動を推進し、2012年には、こうしたモノづくりの価値に創造的なアイデアを加えて「暮らし」の中にも活かすことで、「地域自らが価値を育ててゆけるまち＝クリエイティブタウン」を目指す必要があると考え、「大田クリエイティブタウン研究会」(大田観光協会× 首都大学東京・横浜国立大学ほか)に改称し、これまで、町工場一斉公開イベント「おおたオープンファクトリー」(2012年～)や、モノづくりのまちづくり拠点「くりらぼ多摩川」の設置(2014年～)など、モノづくりのまちづくり活動を育ててきた。

こうした活動を持続的、かつ、発展的に進めてゆくには、多くの主体が関わってクリエイティブタウンを目指す必要があるが、そのためには、「公×民×学」がそれぞれ活動しながら連携して豊かな「クリエイティブタウン」を生み出すためのプラットフォームが必要であることもあり、「一般社団法人 おおたクリエイティブタウンセンター」を設立するに至った。

### センターの活動概要

大田区が有する豊かな地域価値に気づき、育み、さらなる豊かな発展を図るために、「創造」・「技術」・「生活」という「3つの視点」を掛けあわせて、「価値をはぐくむまち」の創出に向けたアクションを検討している。

■5つのミッション 【構想】(Vision Making) / 【計画】(Project Planning)  
【実行】(Action) / 【連携】(Management) / 【発信】(Promotion)

■6つの事業

- 【1】おおたオープンファクトリー企画運営事業
- 【2】くりらぼ多摩川企画運営事業
- 【3】おおたクリエイティブネットワークの構築と展開
- 【4】クリエイティブな地域リノベーションの推進(ストック活用)
- 【5】モノづくりマッチング醸成事業
- 【6】「モノづくりのまちづくり」の展開

### 今後の活動の展望・課題

現在は、上記事業のうち、【1】【2】【5】を中心に展開しているが、今後、【3】【4】【6】の展開を目指した活動を予定している。



### 組織形態

一般社団法人

### 構成団体 (法人に参加する個人の所属)

「公」:一般社団法人大田観光協会(大田区【観光課・産業振興課】の支援あり)

「民」:工和会協同組合(矢口下丸子エリアを中心とした工業系組合)

「学」:首都大学東京・横浜国立大学

### 代表者

センター長・代表理事 野原卓(横浜国立大学准教授)

### 実務体制

理事・監事計8名 / 事務局2名

### 施設概要

くりらぼ多摩川(クリエイティブタウンラボ多摩川:大田区矢口、一般社団法人大田観光協会より運営委託、事務所スペース・活動スペース)

もしくは大田区産業プラザ(Pi o)+大田観光協会、時に工和会館(工和会協同組合所有)も利用することがある

### 問合せ先

E-mail: info@oct-c.com

<https://www.facebook.com/>

一社おおたクリエイティブタウンセンター-267700887078997/

